

金華山の放射線量測定結果と今後の対応（案）

1. 放射線量測定結果

- (1) 調査日 平成24年2月21日（火）晴れ
- (2) 調査員 7名（県2名、市3名、東北大学2名）
- (3) 測定器 NaIシンチレーションサーベイメータ
- (4) 測定結果 （単位：マイクロシーベルト）

①船着場～黄金山神社周辺（5ヶ所）					
神社拝殿前	0.13	神社売店前	0.10	神社表参道	0.11
〃 祈祷待合所前	0.11	〃 裏参道	0.11		

（単位：マイクロシーベルト）

	②黄金山神社～金華山頂上付近	③船着場～白崎（金華山表歩道）
測定間隔	100m	100m
測定箇所	7ヶ所	16ヶ所
測定放射線量	0.13～0.20	0.07～0.16

2. 測定結果に基づく今後の対応

(1) 汚染の状況等

黄金山神社周辺の放射線量の数値は、基準値以下であるが、金華山の山頂付近及び南部地域に基準値を超える放射線量が航空モニタリング調査で測定されている。しかしながら生活圏から離れ、東日本大震災並びに台風15号により歩道被害が激しく人の出入りができない状況にあり、復旧の見通しも立っていないことから、観光客等が長時間留まることは考えにくいいため年間追加被ばく線量は1ミリシーベルトに満たないと予想される。

(2) 除染の方向性

①金華山の山頂付近及び南部地域に基準値を超える放射線量が航空モニタリング調査で測定されているが、人の出入りは困難で生活圏からも離れている。

②国の原子力災害対策本部が実施した試算によると、放射性物質の物理的減衰及び風雨などの自然要因による減衰（ウェザリング効果）により2年を経過した時点で年間被ばく線量が40%減少となる。（ $0.23\mu\text{SV} \rightarrow 0.13\mu\text{SV}$ ）

以上のことから除染の必要はないと判断する。

(3) 今後の対応

黄金山神社周辺は基準値以下であるが、山頂及び南部地域に基準値を超える放射線量が測定されており、頂上や半島南部に近づかないよう観光客向けに注意喚起する。

牡鹿地区山間部の放射線量測定結果と今後の対応（案）

1. 放射線量測定結果

- (1) 調査日 平成24年2月24日（金）晴れ
- (2) 調査員 8名（県2名、市5名、東北大学1名）
- (3) 測定器 NaIシンチレーションサーベイメータ
- (4) 測定結果

（単位：マイクロシーベルト）

	県道牡鹿半島公園線 （牡鹿コバルトライン）	市道鮎川新山線 （鮎川～新山浜）	市道谷川鬼形山線 （新山浜～祝浜）
測定間隔	300m	200m	200m
測定箇所	35ヶ所	32ヶ所	38ヶ所
測定放射線量	0.11～0.27	0.11～0.21	0.11～0.17

2. 測定結果に基づく今後の対応

(1) 汚染の状況等

牡鹿コバルトラインの調査地点3ヶ所で、基準値（ $0.23\mu\text{SV}$ ）を超える数値（ $0.24\sim 0.27\mu\text{SV}$ ）が測定されたが、生活道路として使用している市道周辺には基準値を超える数値は測定されなかった。

また、牡鹿コバルトラインは、東日本大震災並びに台風15号によりがけ崩れ、倒木等により被害が甚大で、現在通行止めとなっており、開通の見通しも立っていない状況にある。

(2) 除染の方向性

- ①牡鹿コバルトラインは生活圏から離れており、現在閉鎖され人の出入りができない状況にあり、長時間留まることは考えにくいため年間追加被ばく線量は1ミリシーベルトに満たないと予想される。
- ②国の原子力災害対策本部が実施した試算によると、放射性物質の物理的減衰及び風雨などの自然要因による減衰（ウェザリング効果）により2年を経過した時点で年間被ばく線量が40%減少となる。（ $0.27\mu\text{SV}\rightarrow 0.16\mu\text{SV}$ ）
- ③ほとんどが国有林であるため、管理者である宮城北部森林管理署（林野庁東北森林管理局）と現地調査の上協議したが、局地的に基準値を超える箇所が見られるが、それはマイクロホットスポットであり総体的には除染の必要がない状況にあるとの結論に至った。

以上のことから除染の必要はないと判断する。

(3) 今後の対応

①放射線量の継続的な測定

当分の間、月に2回、牡鹿地区各集落周辺の放射線量の測定し、住民の不安解消に努める。なお、コバルトラインについては、月1回程度測定し監視していく。

②ホームページ等で測定結果公表

測定結果は、市ホームページ、市報等に公表する。